千葉県障害者就業･生活支援センター連絡協議会だより

広報紙　第13号
平成29年1月27日発行
≪発行元≫
千葉県障害者就業・生活支援センター
連絡協議会 会長　藤尾　健二

会長挨拶

年明けを迎え、平成28年度もいよいよラストスパートに入りました。平成30年度には新たな福祉サービス事業のスタートや、法定雇用率の変更なども予定されており、障害者就業・生活支援センター(以下、中ポツセンター)を取りまく環境も大きく変動することが予想されます。平成28年度から平成29年度は、平成30年度に向けた準備期間としてとても大きな意義を持つと考えます。千葉県の中ポツセンターの活動も、この準備期間において重要な役割を担うと考えられ、当連絡協議会が活動する意義が問われる年になるでしょう。

以前にも紹介させていただいた通り、当連絡協議会は中ポツセンターの組織としては全国でも稀有な存在で、真摯に中ポツセンターの在り方を考える組織として、その役割を期待されている状況です。平成29年度はこのような状況を鑑み、当連絡協議会の体制を構築・維持していくことに関するノウハウを他県にも発信できるよう進められればと考えています。千葉での取り組みをより大きな取り組みに発展させていければ、より良いセンター運営につながることと考えます。またその為に制度の変更等が必要であれば、しっかりと行政とも協議していくことが重要でしょう。

障害者の「働く・暮らす」を取りまく環境も大きな転換期を迎えています。平成28年4月にスタートした「障害者差別解消法」により、職場における合理的配慮が法的義務として位置づけられました。このことにより、我々支援者は、支援の在り方を今一度再考することが求められています。当連絡協議会として進め・構築してきたネットワークをフルに活用して対応してかなければなりません。関係機関のみなさんと共に協議し、共に構築していく取り組みを今後も加速させ、より良い中ポツセンターの運営につなげられればと考えます。

関係機関の皆様のご指導・ご助言をいただき、当連絡協議会の更なる発展を目指していきたいと思いますので、今後とも何卒よろしくお願いいたします。

会長　千葉障害者キャリアセンター　藤尾健二

平成28年度制度施策部会　先進視察研修
～熱い想いに触れる　うつくしま、ふくしま編～

昨年12月10日に、藤尾会長、古川副会長と私の3名で福島県のホテルサンルートプラザ福島で開催された福島県就業支援ネットワーク主催の研修会に参加してきました。前泊の為、夕方に東京を発ち、福島駅に新幹線から降り立ったのが22時ごろでしたが、意外に気温が高く用意して行った厚手のコートでは汗ばむくらいでした。

しかし研修会当日は、昨日と打って変わって気温が下がり、東北本来の冬を思わせる寒さとなりました。

私たちが参加したのは「一般就労」「福祉的就労」「中間就労」と言う三つのテーマに分かれて行われた「一般就労」がテーマの分科会で、参加者は20名程、主に福島県内の中ポツセンターや就労移行支援事業所のスタッフが中心でした。
藤尾会長が講師として「企業支援における合理的配慮」の話をした後、三つのグループに分かれて具体的に合理的配慮について考える為、事例に基づいたグループワークを行ないました。

古川副会長と私もアドバイザーとしてそれぞれのグループに入り、参加者と一緒に事例の検討を行ないましたが、当連絡協議会が行う研修会の熱気にも劣らない活発な議論が行われ、福島の就業支援に携わるスタッフの方々の熱い想いに触れることができた研修会でした。

あかね園　國島　弘

障害者就業・生活支援センター事業における生活支援実態調査

～平成28年度　制度施策部会報告（速報版）～

制度施策部会では、今日の障害者雇用情勢や障害者総合支援法の3年目の見直し等に鑑み、障害者就業・生活支援センター事業（以下、中ポツセンターという）の専門性、とりわけ「生活支援の専門性」に焦点を当て、以下の内容で実態調査を行いました。調査対象は、県内の就労移行支援事業所（119ヵ所）、就労継続支援Ａ型事業所（44ヵ所）、生活困窮者自立支援事業所（46ヵ所）中核地域生活支援センター（16ヵ所）など、合計224ヵ所に対して実施しました。またこれと同時に県内16の中ポツセンターに対しても、「生活支援の専門性」に関する内容で実態調査を実施しました。

それぞれの実態調査結果から県内関係機関が考える生活支援との『共通点』や『相違点』についてクロス集計し分析することで、今後の中ポツセンターの在り方や関係機関との連携の在り方を模索する機会を得られました。

＜県内関係機関の回答結果＞

県内関係機関の回答数は86機関（38.4%）で、内訳は就労移行支援事業所43.2%、就労継続支援Ａ型事業所25%、中核地域生活支援センター62.5%、生活困窮者自立支援事業所30.4%となります。

主な回答では、事業種に関係なく就労前～就労時にかけ「情報提供」と「余暇支援・通勤支援」といった支援を実施している事が比較的多く、就労後になると「金銭相談支援」が多く見受けられました。特に就労前～就労時にかけては、就労する事で新たに必要となる「生活面を補う諸サービスに関する情報提供」や「就労場所までの通勤支援」等といった支援は、その後の就労生活を維持・向上させる重要なリソースである事が読み取れます。

一方就労後の支援では、支援総数は減るものの就労収入を得ることで新たに「金銭相談支援」がニーズとして発生すると推測されます。ただし、就労後の生活支援については就労継続期間によって、また事業所によって大きく対応が異なることが見受けられました。例えば、就労後の生活支援は他機関へのリファー(適切な支援機関、特にここでは中ポツセンター等を紹介する事)や支援終了するケースも自由記述から読み取る事が出来ました。

＜県内中ポツセンターの回答結果＞

県内16ナカポツセンターへの調査結果は、Ａ群(福祉施設等を利用しての就労)・Ｂ群(福祉施設等を利用せず就労)就労前後すべての段階で「情報提供」が大半を占め、就労後の支援に関してはＡ群Ｂ群共に「金銭相談支援(特に金銭管理)」と「余暇支援・通勤支援」が多くあがりました。ただし、精神障害者のＢ群の就労後に関しては「金銭相談支援」と「余暇支援・通勤支援」のほかに「病院等への同行支援」と「家族関係調整支援」が特出している等、比較的Ｂ群の就職後における支援が中ポツセンターの専門性を発揮するフィールドであることが読み取れました。

＜両調査結果の相違点から読み取れること＞

関係機関が中ポツセンターに求める生活支援の専門性としては、「就労先でのマナー等」を求めており、次いで「手帳申請支援」と「年金申請支援」となりました。「就労先でのマナー等」は、就労後に企業内で支援が展開されるため中ポツセンターに求められるのだろうと考えられます。また「手帳申請支援」は障害者雇用率の算定基準となっているため、就労前に中ポツセンターに求められる支援なのだと考えられます。さらに「年金申請支援」は、障害年金に生活保障の意味合いも含まれている事を考慮すれば、これも中ポツセンターに求められる生活支援のひとつであると考えられます。

一方で中ポツセンター側が実施している基本的な生活支援内容は、「情報共有」と「病院等への同行支援」、「余暇支援・通勤支援」であると読み取れます。特に就労先でのマナー支援の必要性は、関係機関との大きな相違点はないと考えられますが、「情報共有」は、関係機関との相違は大きいと思われます。その代りに就労後における企業内での「雇用継続支援（合理的配慮支援）」等の企業に直接関わる支援について求めていることが読み取れました。

上記調査結果の詳細は紙面の関係で割愛しますので、詳細はhttp://chiba-centernw.com/に掲載されるものを参照ください。

制度施策部会長　就職するなら明朗塾　山本樹

多様化する現代で中ポツセンターに求められる支援とは？
～南関東ブロック経験交流会議報告～

11月11日、ホテルポートプラザちばを会場に「平成28年度　障害者就業・生活支援センター南関東ブロック経験交流会議」が開催されました。今年度は千葉県開催ということで、当連絡協議会も企画段階から千葉労働局と準備を行い、東京、神奈川、山梨、長野、千葉の労働局・中ポツセンター職員、県内の公共職業安定所の職員を含めた100名程の出席者を迎える事となりました。

まず、厚生労働省障害者雇用対策課　地域就労支援室室長田中氏から、平成29年度の障害者就労に関連した概算要求のポイントとして、精神障害者の就労・定着や企業における適切な雇用管理に向けた支援の強化、多様な障害特性に応じた就労支援の推進、障害者差別の禁止及び合理的配慮の提供に係る支援体制の強化などを挙げられていました。

つづいて株式会社ぐるなびサポートアソシエ 管理部リーダーの工藤様を講師に迎え、「当事者に役割意識を持たせる」「障害を持ったことが不幸ではなく夢がないことが不幸」「ストレスは悪でなく適度であれば人生を豊かにする」といった同社の取り組みや考え、また中ポツセンターには「数多ある障害者支援機関と企業とのコーデイネーターを担ってほしいが、タイムリーな相談が出来ていないこと、そもそも中ポツセンターを知らない企業がまだ沢山ある」といったご指摘を頂きました。支援を求める声は多くある中、限られた人数で各々の地域での支援活動を拡げる努力と地域に頼られる中ポツセンター運営を目指していく必要がある事を感じました。

東総就業センターの遠藤、就職するなら明朗塾の熊谷より主任職場定着支援担当者の実践報告を行ったあとのグループワークでは、増え続ける生活支援と定着支援、医療・企業・特別支援学校・事業所との連携等、6つのテーマを8グループで討議しました。各グループから出た意見を総括しますと、中ポツセンターへの相談件数が年々増加し社会情勢が急速に変化していく中で効果的な支援を展開していくためには、企業・支援機関・家族の役割の整理が必要であり、障害の多様化や生活様式の変化等から柔軟な対応が求められている、となりました。

ここで得た知識や情報を持ち帰って、それぞれの現場での支援に役立てたいという意識が非常に強く窺えた会議となりました。

あかね園　　中　真宏
東総就業センター　平野　秀樹

第2回連絡調整会議　お知らせ

年2回行っている連絡調整会議、第2回となる次回は平成29年2月24日（金）に開催いたします。

前回、第1回目は夏に開催し「就労移行支援事業所との連携について」というテーマでシンポジウムを行いました。登壇いただいた就労移行支援事業所からの意見を頂戴し、連携方法などを共有、熱い議論も交わせて良い雰囲気の中で終了しました。

第2回となる次回は「中ポツセンターの生活支援」をテーマとし、中ポツセンターがどこまで生活支援を行い、どこから地域の支援機関が行なうのか等、今回も関係機関にご登壇頂きシンポジウム形式で進められればと考えています。

関係機関の皆様には案内を送らせてもらっていると思います。情報交換会も含めて、ぜひご参加いただければと思います。

ふる里学舎　本郷宏治

名　　称 所 在 地	担当圏域 電話番号
千葉障害者キャリアセンター	千葉市
千葉市美浜区新港43	043-204-2385
大久保学園	船橋市
船橋市金堀町499-1	047-457-7380
いちされん	市川市・浦安市
市川市東大和田1-2-10 市川市分庁舎C棟内	047-300-8630
あかね園	習志野市・八千代市・鎌ケ谷市
習志野市茜浜3-4-6	047-452-2718
ビック・ハート松戸	松戸市・流山市・我孫子市
松戸市西馬橋幸町117 ロザール松戸109	047-343-8855
ビック・ハート柏	柏市
柏市柏3-6-21 柏ビル302	04-7168-3003
はーとふる	野田市
野田市鶴奉7-1　野田市役所内	04-7124-0124
就職するなら明朗塾	成田市・佐倉市・四街道市・八街市 富里市・印西市・白井市・印旛郡
佐倉市鏑木仲田町9-3	043-235-7350
香取就業センター	香取市・香取郡
香取市高萩1100-2	0478-79-6923
東総就業センター	銚子市・旭市・匝瑳市
旭市野中3825	0479-60-0211
山武ブリオ	東金市・山武市・大網白里市・山武郡
大網白里市細草3221-4	0475-77-6511
長生ブリオ	茂原市・長生郡
茂原市六ツ野2796-40	0475-44-4646
ピア宮敷	勝浦市・いすみ市・夷隅郡
いすみ市岬町桑田341-1	0470-87-5201
中里	館山市・鴨川市・南房総市・安房郡
館山市中里291	0470-20-7188
エール	木更津市・君津市・富津市・袖ケ浦市
木更津市中央1-16-12 サンライズ中央1F	0438-42-1201
ふる里学舎地域生活支援センター	市原市
市原市今富1110-1	0436-36-7762

ワーキング報告　～特別支援学校編～

前号から掲載していますが、引き続き千葉県特別支援教育課や特別支援学校就労支援コーディネーターの方々と意見交換会を行っています。

内容としては、在学生の移行支援会議のあり方について、中ポツセンター登録のタイミングについて等を話し、また最近の話題としては、県立学校で5年間雇用して一般企業にステップアップしていくという『嘱託技能員・調理員事業』の話が多く出ています。

特別支援校で雇用する技能員・調理員であると職員全体の障害への認知度が高く、良い結果に繋がりやすいのですが、普通校での雇用だと事務長や嘱託職員の障害への理解やステップアップが目的の就労の場である事等に対する認識の違いがあり、残念な結果になるケースがあることなどが挙げられており、特別支援教育課も関係部署との連携を強化していかなければいけないという話しも出ております。

話し合った内容に対して、すぐに変化を求めている訳ではなく、意見交換会を繰り返すことにより、教育機関と就労支援機関とで連携し、皆が同じ方向を向いて支援していけるようになればと考えています。

いちされん　西村拓士

編集後記・広報部会より

昨年の１月４日から意を決し禁煙を始め、いつの間にか一年が過ぎていました。健康という二文字欲しさに自分の年齢を実感させられる今日この頃です。

さて、当連絡協議会は今後も皆様に最新の情報発信を行ってまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

広報部会長　近藤大介

事務局
千葉県障害者就業・生活支援センター
連絡協議会
障害者就業・生活支援センター
ふる里学舎地域生活支援センター
千葉県市原市今富1110-1
電　話：0436-36-7762
ＦＡＸ：0436-36-7612
E-mail：fgakusya-shien@abelia.ocn.ne.jp
ホームページ:
http://www.chiba-centernw.com/